

経営比較分析表（令和4年度決算）

香川県 さぬき市

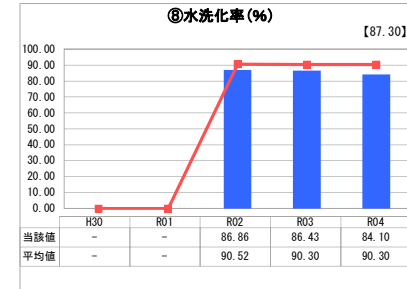
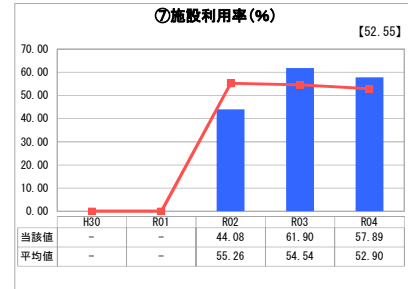
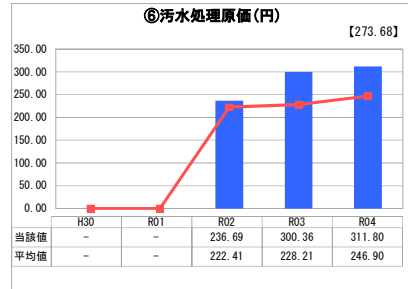
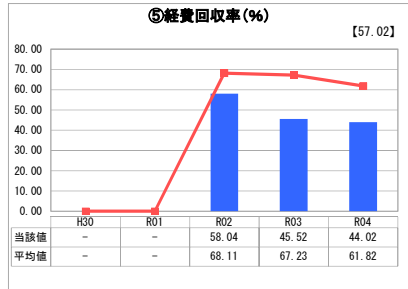
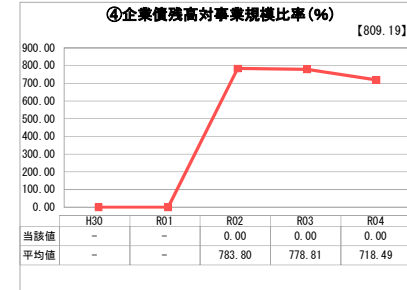
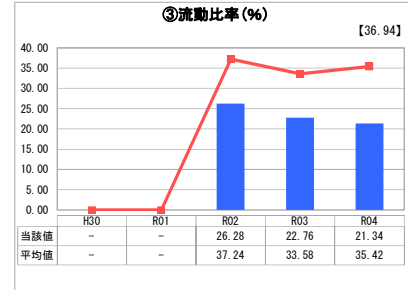
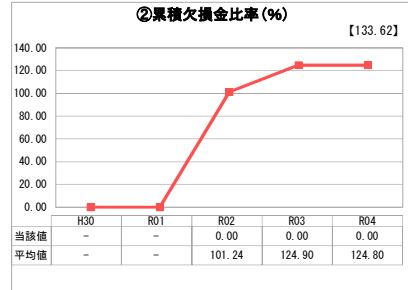
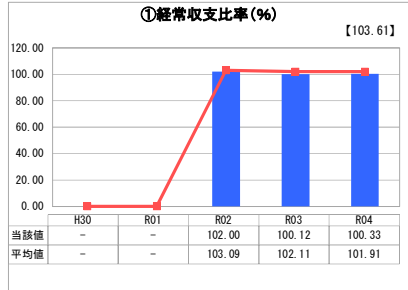
| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|--------|--------------------------------|
| 法適用 | 下水道事業 | 農業集落排水 | F1 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 有収率(%) | 1か月20m ³ 当たり家産料金(円) |
| - | 86.71 | 2.73 | 80.71 | 2,750 |

| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|------------|--------------------------|-------------------------------|
| 45,822 | 158.62 | 288.88 |
| 処理区域内人口(人) | 処理区域面積(km ²) | 処理区域内人口密度(人/km ²) |
| 1,245 | 1.35 | 922.22 |

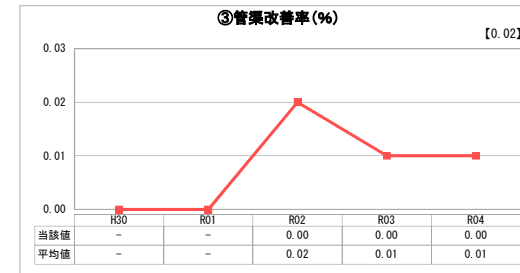
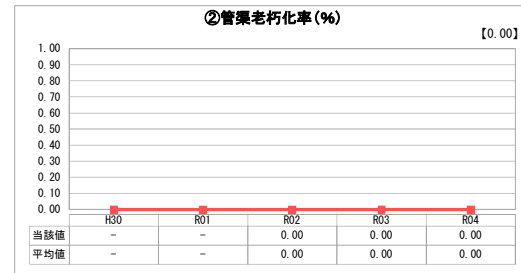
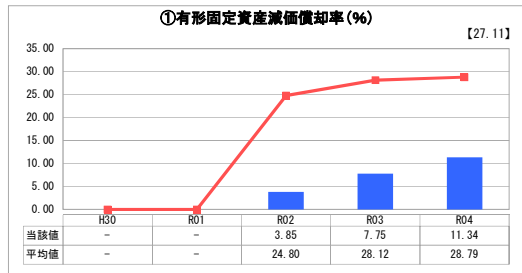
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、100%を上回っているものの、一般会計からの繰入金に依存している状況であるため、更なる経費削減や財源確保に努める必要がある。

②流動比率については、類似団体平均値と比較して低い数値となっているが、流動負債のほとんどが、建設改良費に充てられた企業債であり、流動資産のほとんどが一般会計からの繰入金であることが要因である。

③企業債残高対事業規模比率については、明確な数値基準がない指標であるが、一般的に値が低い方が望ましいとされている。本市においては、企業債元金の償還を一般会計からの繰入金で賄っていることが低い数値の要因である。

④経費回収率及び⑥汚水処理原価については、本来使用料で回収すべき経費を賸せておらず、一般会計からの繰入金で補填している状況であることから、引き続き経費削減と使用料の確保に努めていく。

⑦施設利用率については、類似団体平均値と概ね同数値であり、適正な利用状況である。

⑧水洗化率については、類似団体平均値と比較して、やや下回っているが、経済的要因、地理的要因等により、実情に応じた汚水処理を実施しているためである。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、令和2年度に法適用企業へ移行した際に、それまでの減価償却累計額相当分を控除した数値としたため、類似団体平均と比べ、大幅に下回っているが、実際には、老朽化が進行している施設・設備も多いことから、引き続き、改築更新事業を実施していく。

全体総括

本市における経営状況は、人口減少に伴う収入減や老朽化に伴う経費の増加など、決して安定しているとは言えないものの、使用料収入については、大幅な減少はなく、企業債残高についても減少傾向が見られることから、今後とも引き続き、水洗化率の向上を図る一方で、老朽化に伴う更新においては、ネットワーク化、ダウンサイジング等を考慮しつつ、事業費削減による企業債発行の抑制、経費削減に努めていくことにより、持続可能な下水道経営を目指す。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。